

「令和3年度業務実績報告書 小項目評価」にかかる事前質問及び回答

資料13(追加)

小項目	自己評価	事前質問	回答
2	A	中期計画欄に記載されている事項の実施について、年度を通じて困難であった点を教えてください。	<p>新型コロナウイルス感染拡大状況に伴い、2020年度（令和2年度）から、感染予防の徹底と活動範囲の自粛が余儀なくされ、教育活動、研究活動ともに困難を生じました。オンライン授業、実習受け入れ中止の際の代替実習等、臨機応変かつ即時に対応してきました。学生に対しては、ワクチン接種および個人レベルでの感染予防を徹底した結果、クラスター発生は無く経過し、学修の進捗に大きな悪影響はありませんでした。</p> <p>2021年度（令和3年度）には、文科省令和3年度第1次補正予算による「ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業」に選定され、今後、新興・再興感染症が流行した場合であっても、実践的で質の高い教育が行えるよう、健康危機管理や冷静かつ柔軟に対応する判断力と行動力の育成に向けた実践教育手法として、シミュレーションラボを導入しつつあります。</p>
3	A	中期計画欄に記載されている事項の実施について、年度を通じて困難であった点を教えてください。	<p>人材の育成の中期計画は、「人間栄養学を基本とし、栄養と健康・疾病等との関係を探究し、人の栄養・食事の課題を解決する知識・技術・実践力の総合的な教育を行う。」です。この計画の遂行に当たり、年度を通して困難であった点を下記に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学内での授業（実習・実験を含む）の実施において、科目ごとでのリスクや課題をまとめ、対面での授業の導入に向けた準備をしつつ、授業実施期間中も学内の状況だけではなく、感染状況等の予測をたてながら進めていくことが困難ではありました。しかし、教員間での連携を高め確実に進めることができました。 ・令和2年度においてコロナ禍でのオンライン授業が多かったことにより、学生同士の関係性が希薄になっていました。この困難に対して、実験・実習において、学生同士のコミュニケーションが学習効果に影響することもあり、令和3年度は、対面とはいえ制限のある中で、学生同士がコミュニケーションを取る時間をあらかじめ考えて準備・運営しました。
4	A	同上。また、精神保健福祉士の合格率について、継続的に目標を下回りB評価となっていますが主な要因を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一部の実習を途中から学内実習に変更するなど、その都度、教育内容や方法の変更を求められる状況がありましたが、最大限教育の質を担保するよう工夫して実施しました。 ・精神保健福祉士の合格率については、将来の進路を卒業間近まで悩んでいた学生や、就職先では必ずしも資格が必要ではない学生が不合格となっており、準備不足が要因として考えられます。今後もさらに学生たちへのきめ細やかな指導を徹底していきます。

小項目	自己評価	事前質問	回答
5	A	中期計画欄に記載されている事項の実施について、年度を通じて困難であった点を教えてください。	新型コロナウイルスによる影響でオンライン授業を取り入れ質が低下しないように工夫して取り組んできました。また理学療法士・作業療法士学校養成施設指定規則の改正により新カリキュラムの運用が開始したことから、今後は対面での実技指導法の質の向上を検討していきたいと考えています。さらに新カリキュラムの運用により新設科目に伴う新規実習施設の確保と実習指導者の質の向上を図るための講習会の実施について検討していきます。
6	A	「人とは何か」の教授方法について、現時点における一番の難しさはどこにあるか教えてください。	各教員が各々の専門性（e.g. 医師、生物学者、教育学者、心理学者）を活かし多角的に”人”とは何かを教授しています。ただし、学生が哲学的に”人”を考える機会が少なく思え、そこをどう補うかが課題かもしれません。
10	S	(ア) 学部教育a. 教育内容 において言及されている「卒業年次生への調査」で識別された課題について教えてください。また、b. 教育方法で言及されている設備の更新について学生の評価を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業年次生への調査において、象徴科目・人間総合教育科目・連携実践教育科目の授業満足度はいずれも80%近い高い結果でした。その一方で人間総合教育科目の一部の授業内容が難しいなどの課題が示されました。 ・学内のWiFi環境を整備し教室に加え食堂や廊下の空きスペースなど様々な場所で密にならずにオンライン授業の受講や自己学習ができるように整備しました。78.5%の学生からは満足であると回答を得ています。その一方でWiFi環境が不安定であるとの声も一部みられました。
10	S	遠隔授業と対面授業との割合や、例えばゼミは原則対面、一般教養科目は遠隔授業推奨などルールはありますか。また、遠隔授業について文科省などから具体的な数値目標や、制限などの通達、ガイドラインなどが示されているのでしょうか。	<p>オンライン授業は時間や地理的制約がないなどの利点がある一方、学生のコミュニケーション能力が培われないなどの課題が指摘されています。本学の学生が将来、保健医療福祉人材として活躍するためには、患者等と豊かな人間関係を築き、ヒューマンサービスを実現できるスキルの修得が不可欠です。そのようなスキルは座学のみでの修得が困難であるため、講義はオンライン授業を行いました。演習等は原則、対面で実施しました。</p> <p>大学設置基準では、修得すべき124単位の内多様なメディアを高度に利用して教室以外の場所で履修させることができる単位数は60単位としています。しかし、文科省から「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」において、面接授業に代えてオンライン授業を活用する事と面接授業により得られる教育効果を有すると大学が判断した場合には60単位の算定に含めなくてよい事が通知されました。この状況は令和3年度も事務連絡により継続しております。ガイドラインについては「大学等における新型コロナウイルス感染症への対応ガイドラインについて（周知）（令和2年6月5日）」があります。</p>
12	A	授業評価で3未満であった科目について、どのようなフォローをされているか教えてください。	<p>評価を実施した117科目のうち、授業評価4以上の科目は101科目、授業評価3以上4未満の科目は16科目でしたので、授業評価3未満の科目はありませんでした。</p> <p>なお、学生に対しては、履修状況、理解状況により、個別に補習講義や面談等でフォローをしています。</p>

小 項目	自己 評価	事前質問	回答
13	A	<p>教員へのアンケートにより明らかになった主な課題を具体的に教えてください。</p>	<p>感染防止対策を講じたことにより成績評価の方法に変更があった（例：レポート評価の増加、オンライン試験の実施、定期試験以外の評価項目の追加等）と回答した教員は38.6%、成績評価の結果に変化があったと回答した教員は35.7%でした。成績評価の影響については、「全体的に成績が高くなる傾向があった」「オンライン授業を効果的に受講した学生とそうでない学生間の成績の差が広がった」「授業に臨む姿勢がみえにくくなり加点しづらくなった」といった意見があった一方、「評定そのものに大きな影響はなかった」という意見もありました。感染防止対策のため定期試験の方法を変更した科目については、成績評価への影響がみられており、可能な限り、評価内容に応じて妥当な定期試験の方法を選択していくことが求められます（2022年度前期の定期試験は、コロナ感染症拡大前と同様の方法で実施予定です）。また、「オンライン授業を効果的に受講した学生とそうでない学生間の成績の差が広がった」という意見については、授業の特性に応じた対面授業、オンライン授業、ハイブリッド授業の効果的な活用について引き続き検討していく予定です。</p>
16	A	<p>①クロス・アポイントメント制度について、現時点でどのようなデメリットを把握しているか教えてください。②決算書によると、本年度も常勤職員を充足できなかった旨の記載がありますが、何名程度（もしくは時間数）不足していたのか、教えてください。③勤怠管理システムを導入したとありますが、教員の勤務実態につき、認識している課題を教えてください。</p>	<p>①クロス・アポイントメント制度については現在ではデメリットを感じておりません。 ②令和3年度において充足できなかった教員（常勤）数については5名（横須賀キャンパス3名、SHI2名）でした。 ③勤怠システムの導入により教職員の出勤状況や在宅勤務についてリアルタイムで把握し、管理しやすくなったメリットがある一方で、勤務実態をより正確に把握できるようになったことにより、教員の健康管理についてこれまで以上にしっかり実施していかなければならないという課題について認識しております。また、年10日以上年次有給休暇が付与される労働者に対し、その日数のうち年5日の年次有給休暇を取得させることが使用者の義務となっておりますが、取得義務日数を超える年次有給休暇の取得についても、ワークライフバランスを図る上で重要なことから、業務の無駄を省き、どのように効率化していくかといった検討も必要であると考えております。</p>

小 項目	自己 評価	事前質問	回答
17	A	ラーニングコモンズについて、もう少しご教示頂けますか？	<p>ラーニングコモンズとは、学生の“主体的”な学びを支援する場であり、自学やグループ学習をする利用者の利用目的や学習方法にあわせ、図書館資料やICT（情報通信技術）を柔軟に活用し、効率的に学習を進めるための人的な支援を含めた総合的な学習環境のことであります。</p> <p>従来の図書館は来館し静かに利用するだけの場所でしたが、コロナ禍以降の利用者数減少もあり、従来以外の価値を図書館に付与することで教育活動に貢献するべきであると判断いたしました。</p> <p>附属図書館設置予定のラーニングコモンズでは、活発に議論・学習を行うことができるグループワークスペース、発表の練習などに利用できるプレゼンテーションスペースを設置するほか、個人ブース、グループ研究室も整備することにより、様々な利用方法に対応できる空間を提供し学生の”主体的”な学びを支援する場としての教育活動に貢献したいと考えています。</p> <p>またラーニングコモンズとそれ以外のエリア分けを行い、従来通り静かな学習空間としての図書館も維持いたします。</p>
18	S	課題に記載されている「今の学生の世代に向けた教授法」について、これまでとの違いが何かあれば教えてください。	<p>今の世代の学生が現代の日本や世界が抱える正解の無い社会問題と対峙するには、これまでの講義形式による正しい知識や技術等の習得のみならず、学生が主体的・能動的・協働的に課題を発見し、その解決へのアプローチを模索していく能力を身につけることが重要であるため、それらの育成に向けた新しい教授法として、グループディスカッションやグループワークなどを通じ学びの質と深さを追及するアクティブラーニングの導入を進めている所であります。</p>
19	A	学部入学者受験倍率が急に低下した要因について現時点でのお考えを教えてください。	<p>18才人口の減少による影響の他にも県内に他の公立大学が開設したことや、新型コロナの感染拡大のために、受験生に学生との交流を含めた本学をアピールする機会を持てなかったこと、保健医療福祉職のイメージが変化しつつあること等が要因として考えられます。様々な要因について現在全学入試委員会において分析を進めております。</p>
22	A	在学期間の大半がコロナ禍となっている学生も増えていますが、サークル活動等の課外におけるグループ活動の継続性について、何か支援をされているか教えてください。	<p>今の世代の学生が現代の日本や世界が抱える正解の無い社会問題と対峙するには、これまでの講義形式による正しい知識や技術等の習得のみならず、学生が主体的・能動的・協働的に課題を発見し、その解決へのアプローチを模索していく能力を身につけることが重要であるため、それらの育成に向けた新しい教授法として、グループディスカッションやグループワークなどを通じ学びの質と深さを追及するアクティブラーニングの導入を進めている所であります。</p>

小項目	自己評価	事前質問	回答
24	A	<p>教員へのアンケートで明らかになったニーズについてお教えください。</p>	<p>研修内容・研修会講師・開催方法・開催日時についてのアンケートを行った結果、研修内容はシステムティックレビュー/メタアナリシスの方法、量的研究の方法を希望する者が多く、続いて論文査読方法、文献検索・管理、研究に便利なツールについてでした。開催方法についてはZoomでのオンライン研修会、開催日時は水曜日13時～14時30分の希望が多かったです。</p>
36	A	<p>個人情報保護に関するオリエンテーションでの説明は、学生の何パーセントが対象となりましたか？また、教職員に対する研修実施状況について教えてください。</p>	<p>入学時のオリエンテーションの際に個人情報の取り扱いについて説明を行っており、更に実習に行く学生には実習のオリエンテーション時に個人情報の取り扱いについて重ねて説明しているためすべての学生が受講しています。</p> <p>教職員向けの研修については、不正アクセスによる個人情報の流出等に係る大学のインシデントをもとにしたリスクマネジメントセミナー（令和3年7月実施：公立大学協会主催）について受講勸奨を行いました。</p> <p>今年度は個人情報保護も含めた不祥事防止に係る総合的な研修について、本学主催で実施する予定です。</p> <p>また、令和2～3年に大幅な改正のあった「個人情報の保護に関する法律」への本学の対応として、本学の業務運営に沿った規程整備など令和5年4月1日施行に向けた準備を進めているところですが、教職員への周知についてもさらなる強化を図ってまいります。</p>
38	A	<p>アンケート調査の結果、明らかになった課題及び課題への対応状況を教えてください。</p>	<p>学生が実習先でのハラスメントを不安に思っていることが課題としてあげられた為、学生向けのハラスメント防止講義の中で実習先でのハラスメントへの対応を重点的に取り上げたり、実習の前に行われるオリエンテーション時に学内学外のハラスメント相談体制についての周知を改めて実施することにしました。</p>
		<p>素晴らしい人材を数多く輩出して来られましたが、卒業後に適正で十分な報酬を得ることができているか、他の職種と比較してどうなのか、お考えがあればお教えください。優秀な人材を保健福祉の分野に引き付けるための取組みがあればお教えください。</p>	<p>選択した職種によっても異なるため一概には言えませんが、卒業生が保健医療福祉分野で活躍していくには待遇も重要ですがやりがいを持てるような就業環境がなにより重要だと考えます。優秀な人材を保健福祉の分野に就職後もひきつけるためには、就業者がより高度な専門知識や技術を身につけるために、職場において大学院へ進学しやすい環境を整備していただくように働きかけていくことが重要であると考えております。</p>

小 項目	自己 評価	事前質問	回答
その他		<p>今後に向けて、中期目標、中期計画における数値目標の設定方法について、考え方を整理して行く必要があるかと思いますが、現時点でお考えがあればお教えてください。</p>	<p>次期中期目標及び中期計画（数値目標含む）については、見込評価確定後、県及び法人にて順次検討を進めてまいります。</p> <p>評価委員会から見込評価を受けた後、その結果を踏まえながら県にて次期中期目標の骨子を策定し、令和4年度中に委員の皆様にご意見をいただく機会を設ける予定です。その後、県が中期目標を策定したのちそれを達成するための次期中期計画（数値目標含む）を、大学を運営していく中で直面した課題及びそれへの対応、第2次将来構想の内容も踏まえながら大学が作成していく予定です。</p> <p>従いまして、現時点で数値目標の設定にかかる具体的な方針は立てておりませんが、令和5年度中の次期中期目標及び中期計画策定に向けて、今後、委員の皆様にも適宜ご意見をいただく予定です。</p> <p>その折はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
		<p>（業務実績報告書P8）3キャンパスであることによるシナジー効果について、どのような効果があったか、教えてください。</p> <p>学部卒業生243名のうち、進学希望者の人数を教えてください。</p> <p>（業務実績報告書P12） シュミレーションについて、小項目評価に記載はありますか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3キャンパスのシナジー効果：横須賀・川崎・横浜キャンパスに様々な知識経験を有する教員が多数在籍しているため相互に連携することで、学生に対する多様な教育を展開できています。 ・ 進学希望者は6名です。また学部卒業生は229名の誤りでした。申し訳ありません。 ・ シュミレーション：小項目10（その他の取り組み）に記載があります。
		<p>（財務諸表）業務活動によるキャッシュ・フローが前年度の580百万円から85百万円と大きく減少した主な理由（目的積立金の取崩しに対応するもの以外）を教えてください。</p>	<p>令和2年度末付け退職者に対する退職金の給付133百万円（前年度比91百万円の増）及び県から交付される標準運営費交付金の減額（前年度比77百万円の減）が主な理由です。</p>
		<p>教員・研究者のダイバーシティー（年齢、性別、その他）についての現状とお考えをお教えてください。</p>	<p>多様な年齢、性別、経歴を持つ教員の採用を推進しております。組織の多様性を高めることは大学に活力をもたらし、ひいては研究活動や教育活動の質を向上させていくことにもつながるため大変重要であると考えております。</p>